



紙面のガーデニング
ラルク（浦学の泉）

浦学だより

Vol. 89

☎ 336-0975

埼玉県さいたま市緑区代山 1 7 2

☎ 048-878-2101 ☎ 048-878-3335

http://www.uragaku.ac.jp/

発行者 浦和学院高等学校広報渉外部

編集者 浦和学院高等学校企画部

URAWAGAKUIN HIGH SCHOOL

2013.6.1

第85回 センバツ大会 初優勝



B S O										
一	二	三	四	五	六	七	八	九	計	H E
浦	美	下	田	佐	林	常	上	宇	0	1
学	和	9	1	6	5	3	7	8	0	0
院	竹	6	4	8	5	3	9	2	0	0
村	贊								7	2
									0	8
									X	1
									7	1
									8	0
									0	0

UMPIRES

PL TB MB PB

窪 樋 古 野

田 橋 川口

第85回記念選抜高校野球大会(甲子園)にて初の 全国制覇

本校野球部が、悲願の全国制覇を果たしました。春9回・夏11回という埼玉県勢最多の甲子園出場校でありながら今まで優勝に届きませんでしたが、創部35年目で輝かしい全国初制覇を果たしました。（埼玉県勢の選抜大会優勝は45年ぶり2度目）

決勝戦でありながら大量点を獲得、17-1で済美高校（愛媛）に圧勝。走攻守それぞれに普段の練習を活かした際の試合ばかりでしたが、特に、エース小島（2年 鴻巣市立赤見台中学校出身）の活躍、高田（3年 朝霞市立第三中学校出身）の3試合連続ホームラン（大会1位タイ記録）も素晴らしい記録となりました。

甲子園球場は、初戦からファイヤーレッズ（生徒会・吹奏楽部・ソングリーダー部からなる本校応援本部）が中心となって多数の応援生徒で真っ赤に染まり、浦学の一体感が応援席にあふれていました。

そして、保護者の方、卒業生の方、近隣の方々、さらには東日本震災以降本校が交流を続けている石巻の方々にもたくさんの応援をいただき、本当に選手たちの励みになったはずで。みなさん、応援ありがとうございました。夏も全国制覇を目指して頑張ってください。

【決勝】

浦和学院	0	0	0	7	2	0	8	X	17
済美	0	1	0	0	0	0	0	0	1

【決勝戦 先発選手】

- ①竹村（3年） ②賛（3年） ③山根（3年・主将）
④高田（3年） ⑤木暮（3年） ⑥斎藤（3年）
⑦西川（3年） ⑧小島（2年） ⑨服部（3年）

【決勝までの戦績】

2回戦（初戦）	4-0	（土佐・高知）
3回戦	11-1	（山形中央・山形）
準々決勝	10-0	（北照・北海道）
準決勝	5-1	（敦賀気比・福井）



25年度の本校の指針

学校法人明星学園理事長 小沢 友紀雄
浦和学院高等学校校長

本校野球部は第85回選抜高校野球大会で初優勝を成し遂げました。浦学ふあみりとしてこんなに嬉しいことはありません。学校だけでなく、地域社会の活性化にも大きく貢献したと思います。同時に頑張ったファイヤーレッズのソングリーダー部や吹奏楽部と生徒会および野球部、そしてハンドボール部、テニス部、パワーステッピング部、などなどの素晴らしい活躍が浦学を間違いなく活性化しています。そして、浦学ふあみり意識を推進させ、浦学のレベルアップのために「品格のある文武両道の浦学」を目指し、あらゆる活動のモチベーションをこの優勝でさらに高める必要があります。今の時代に適応した部活動の育成や進学実績の推進、国際教育や交流の推進は今やるべき本校の重要課題です。

「生徒の安全第一」は常日頃私が口にかけている言葉です。病気や怪我だけでなく、精神面でのケアをも重視してきました。学校生活や社会生活に適合するためのライフスキル教育に力を入れ、各種トラブルの予防にも力を入れておりますが十分とは言えません。その対策のためには、エビデンスベースおよびデータベイスドを基本とする姿勢が大切です。十分に信頼に値する資料や証拠があつて、初めて有効な方略を見つけて行動することが出来ます。私はこの考えを基本として、当校の教育（特にライフスキル教育）を問題解決型思考で推進することに力を入れています。

最近、「いじめ」や「体罰」が話題になっています。当校では勿論これらを禁じ最大の努力で予防に努めています。が、実際には表面化していない情報の収集は容易ではありません。これらの問題解決には教職員と生徒と保護者の三者の協力体制が不可欠です。校内に設けた校長への「U便ポスト」を色々な問題を含めて活用して頂きたいと願っています。

「常に前向き、そこに夢と希望がある明るく開けた学園」を実現しましょう。

全国選抜大会

部活動大会報告

パワーリフティング部

3年P組 早川 琴果
(三芳町立三芳中学校出身)

私達は、3月24日に大宮武道館で開催された全日本選抜高校パワーリフティング選手権大会に出場しました。今回の大会では、世界大会の選考も含まれており、各部員それぞれが大きな目標を持って日々練習に励んできました。私もまた、今回の大会での優勝を目標にしていたのですが、良い結果を残す事ができず、悔いの残る試合となってしまいました。各部員とも良い結果を出せた者、出せなかった者といいましたが、全体としてまだ力を出しきれていないように感じました。

しかし、この悔しさをバネに、それぞれが練習を重ねていき、夏の大会では団体優勝を目指していきたいです。



男子ハンドボール部

3年K組 斎藤 航大
(八潮市立八潮中学校出身)

私達ハンドボール部は、3月24日から静岡県浜松市で行われた全国選抜大会に出場しました。上位進出を狙って臨んだ全国大会の1回戦目は、山口県の岩国高校でした。接戦の末2点差で勝利することができました。2回戦は九州地区1位の長崎県の瓊浦高校で、3点差で惜敗しました。途中までリードしていただけに本当に悔しい思いをしました。改めてわかった事は、1人1人が自分の役割を果たし、大事な場面で得点できるチームにすることです。夏のインターハイでは、頂点に立てるよう練習に励んでいきます。応援よろしくお願いします。



テニス部

3年F組 浅山 貴和子
(ふじみ野市立大井中学校出身)

私達テニス部女子は、3月21日から行われた全国選抜テニス大会に出場しました。県大会、関東大会ではチーム丸となって苦しい戦いを勝ち抜き、県大会では優勝を、関東大会では準優勝をすることができました。頂点を狙って挑んだ全国大会は、3回戦目に長崎の九州文化学園に負けてしま



まい、ベスト16という結果で終わりました。自分たちの実力不足を感じ、とても悔しい思いをしました。この悔しさを糧に、より一層の努力をしてインターハイで最高の結果を残したいと思います。支えて下さった先生方、保護者の方々に感謝します。これからも、応援よろしくお願いします。

世界大会出場

ソングリーダー部

3年G組 近藤 綾音
(川口市立西中学校出身)

私達SPLASHは、3月9日・10日にアメリカのオーランドで行われた「NDA NATIONAL CHAMPIONSHIP 2013」という世界大会に出場しました。11月に幕張メッセで行われた全国大会で3位に入賞し、世界大会への出場権をいただきました。

世界大会では、部門6位という結果を残すことができました。アメリカでは、ダンスのテクニックや表現力がとてもパワフルで圧倒されましたが、同時に肌で本場のチアを感じることができ、とても勉強になりました。これらのことはこれからの私達の課題になりました。アメリカでは会場の外でもステージ裏でもお互いの健闘を祈り「Good Luck!」「You too!」の会話が飛び交っていました。全く知らない国のチームとも明るく声を掛け合い、とても素晴らしい経験となりました。



平成24年度 受験結果について

ここ数年「理高文低」という傾向が続いているが、昨年ほどそれを実感した年はなかった。就職氷河期において、就職率の高い理系に人気が集まるのは当然だろう。ある程度予想はしていたが、それを上回るほど理系は厳しい入試となった。この傾向は今年も続くことが予想されるので、3年生の理系希望者は、相当覚悟して受験に臨んでほしい。理系以外では、資格志向が強く、看護医療系はここ数年高倍率の入試を維持している。他にも、管理栄養士や幼児・保育系の希望者数は増加が目立っている。文系では特に目立った動きはなかったが、以前の「公務員を目指すために法学部を志望する」などの学部選びは少なくなり、かわりに心理や歴史など、自分の学びたい系統を志望する生徒たちが増えた。

そのような中で、最も注目すべき点は、やはりセンター試験の結果であろう。昨年は平均点が大幅に下がったことにより、全国的に弱気な出願状況になった。無理をしない受験生が増えているようだが、向上心を失ってほしくないと思う。

昨年度の本校実績は、生徒たちがよく健闘し、大学進学率80%を維持したまま難関校への合格者数をかなり伸ばした。大いに飛躍したと言えよう。特に「GMARCH(学習院・明治・青山学院・立教・中央・法政)」と呼ばれるグループへの合格者は前年の7名から34名へと、約5倍に増加した。その他の難関校への合格者も軒並み増えた。ただし、昨年度は良い結果の出た生徒とそうでない生徒がはっきりと分かれた印象がたいへん強い。良い結果が出た生徒は毎日地道に勉強を続けた生徒で、そのような生徒は授業や宿題をきちんとこなし、周囲のアドバイスにしっかりと耳を傾けていた。一方、良い結果の出ない生徒は、授業を疎かにし、やる気にもムラがあり、自分の考えに固執していた。

これらの反省を生かしてもらい、3年生には昨年以上の実績を残せるよう、努力してほしい。

進路指導部長 高橋 広和

大学・短大
現役進学率

87%

区分	進学数	現役合格率
国公立大学	16名	81.0%
私立大学	616名	
短期大学	53名	6.8%
大学・短大計	685名	87.8%
専門学校	58名	7.4%
総計	743名	95.3%

※上記は、大学・短大合格者のうち、入学辞退した進学準備者を含んだ人数。

東京農工大学農学部 一般入試

サイエンス 内山 誠
(上尾市立上尾南中学校出身)

私は、受験勉強を始めた段階で国立の農学部を志望していたので、おのずと受験校とやるべき勉強は決まっていた。結局センターの結果とを見てこの大学に前期後期に出願しましたが、センターリサーチB判定の前期は撃沈。E判定だった後期で合格しました。後期試験は英語だけでしたが、英語が私の唯一の得意科目だったことが幸いしました。

現役UG生みなさんは他の何をさぼっても、ボキャブラバトルだけは1年生からまじめに取り組んだほうがいいと思います。

受験で辛かったのは絶対受かるとなめてかかった大学に落ちたことです。常に心に余裕を持つことも大切だと感じました。

明治大学文学部 一般入試

リーダーズ 宮下 奈々
(さいたま市立東浦和中学校出身)

私は1、2年生の頃から学習の計画をたて、それに沿って勉強してきました。また、2年生の終盤からは問題集ごとにとどれくらいの期間で何周終わらせるかも決めていました。そのため、特に壁にぶつかることはありませんでした。しかし、受験科目を選択する際には非常に悩みました。3年生の6月くらいまでのどの科目で受験するかが決まらず、毎日不安を抱えていました。

選択後は悩みぬいた科目ということで受験勉強に集中するようになり、センター試験、一般入試共に良い結果を残すことができました。

受験は辛く長く、本当に大変なものです。大切なのは何よりも意志の強さです。自分が今何をすべきなのかははっきりわかっているけれど、合格へ限りなく近付けたと思います。頑張ってください。

埼玉大学理学部 一般入試

プログレス 島村 昌太
(越谷市立武蔵野中学校出身)

私は、1年生の時から埼玉大学を志望し、模試はかかさず受けてきましたが、結果はいまひとつでした。センター試験当日は、精一杯やり抜こうと思いましたが、自己採点で全体の7割も達していませんでしたが、得意の理科がいつも以上にできていて、そのおかげか前期で合格することができました。

私は、勉強時間が人より決して多い方ではありませんが、やる時には集中して勉強していました。勉強でわからないところは、できるだけ時間をかけて自分の頭の中で徐々に理解していくことができました。何事も一気に全部身につくわけではありません。1日の勉強時間が少なくても、毎日の勉強の積み重ねで、なだらかなカーブを描くようにして上達するように感じました。更に、それを後押ししてくれた周りの先生方の存在も支えになりました。今の自分があるのも、先生方のおかげです。とても、感謝しています。

大学合格者
体験記

平成24年度

現役生受験結果

(合格者延べ数)

国公立大学		私立大学		私立大学		短期大学		看護・医療系専門学校		専門学校	
筑波大学	2	上武大	1	東京理科大	5	青山学院女子短大	4	大宮歯科衛生士専門	1	ホンダテクニカルカレッジ	1
埼玉大学	3	城西大	14	東都医療大	1	秋草学園短大	1	川口市立看護専門	1	ミスパリビューティ専門	1
宇都宮大学	2	城西国際大	7	東邦音楽大	1	亜細亜短大	3	北里看護専門	2	国際理容美容専門	1
東京農工大学	1	駿河台大	4	東邦大	2	有明教育芸術短大	1	晃陽看護栄養専門	1	埼玉県理容美容専門	3
山形大学	1	成蹊大	3	東洋英和女学院大	1	浦和大短大	1	さいたま看護専門	1	埼玉県立深谷商業高等	1
高知大学	1	成城大	1	東洋学園大	2	大妻女子大短大部	2	さいたま赤十字看護専門	1	中央高等技術専門	2
熊本県立大学	1	清泉女子大	2	東洋大	39	川口短大	3	埼玉医療福祉専門	1	埼玉自動車大学校	1
釧路公立大学	3	聖学院大	15	獨協大	8	共立女子短大	1	慈恵看護専門	1	秀林外語専門	1
北見工業大学	1	聖徳大	11	二松学舎大	2	国際学院埼玉短大	2	帝京高等看護専門	3	織田製菓専門	1
職業能力開発大学校	1	西武文理大	10	日本医療科学大	2	国際短大	2	東京医業専門	1	神田外語学院	2
国公立大学 小計	16	専修大	9	日本体育大	2	埼玉東萌短大	1	戸田中央看護専門	2	早稲田医学院歯科衛生	1
私立大学		洗足学園大	3	日本橋学園大	1	自由が丘産能短大	2	日本リハビリテーション	2	早稲田美容専門	2
		創価大	1	日本工業大	16	十文字学園女子短大	1	早稲田速記医療福祉専門	2	大宮国際動物専門	2
		大正大	4	日本大	33	淑徳短大	3	看護医療専門 小計	19	大原法律公務員専門	1
		大東文化大	24	日本保健医療大	4	女子美大短大部	3			大原学園	1
		拓殖大	11	日本薬科大	1	星美学園短大	1			東京コミュニケーションアート	1
		高千穂大	1	人間総合科学大	4	聖徳短大	2			東京スイーツ&カフェ	1
		宝塚大	3	ネブラスカ大	1	帝京短大	4			東京デザイン専門	1
		玉川大	4	福山大	1	戸板女子短大	4			東京ビジュアルアーツ	1
		多摩美術大	2	文化学園大	6	東京家政短大	1			東京ビューティアート	1
		千葉科学大	1	文芸学院大	5	東京交通短大	1			東京フィルムセンター	1
		千葉工業大	16	文教大	7	東京成徳短大	1			東京ヘアビューティ	1
		中央大	9	平成国際大	3	東京農業短大	1			東京ヘアメイク	1
		中央学院大	12	法政大	11	新渡戸文化短大	1			東京観光専門	1
		鶴見大	1	武蔵大	6	日本歯科大東京短大	1			東京声優アカデミー	1
		帝京大	63	武蔵野大	2	日本大短大部	3			東京総合写真専門	1
		帝京科学大	9	武蔵野美術大	1	武蔵丘短大	2			東放学園専門	1
		帝京平成大	13	明海大	4	目白短大部	2			東萌ビューティカレッジ	1
		東海大	6	明治大	5	山村学園短大	1			日本外語専門	2
		東京医療保健大	1	明星大	3	山野美容芸術短大	2			日本工学院専門	1
		東京家政学院大	3	目白大	7	立教女学院短大	1			日本美容専門	1
		東京経済大	5	ものづくり大	11	短期大学 小計	58			武蔵野調理専門	1
		東京工科大	7	ヤマザキ学園大	4					文化服装学院	2
		東京工芸大	3	横浜商科大	1					専門学校 小計	41
		東京国際大	31	横浜美術大	1						
		東京女子医大	1	酪農学園大	1						
		東京情報大	1	立教大	8						
		東京成徳大	2	立正大	14						
		東京電機大	11	流通経済大	13						
		東京都市大	6	了徳寺大	1						
		東京農業大	2	麗澤大	5						
		東京福祉大	2	和光大	1						
		東京未来大	4	私立大 小計	728						
		東京有明医療大	3								

平成25年3月31日現在

第33期卒業生

在籍 780名

上智大学法学部 公募推薦

グローバル 益山 大器
(さいたま市立与野東中学校出身)

受験には、一般入試・推薦入試など、様々なスタイルがありますが、それぞれ違った特徴や難しさがあると思います。その中で、私は推薦入試という形で進路を決めました。

推薦入試において大切なことは、ニュースや新聞、本など、多くの媒体を通じて情報を収集し、それについての自分の考えや意見を論理的に構成できるようなトレーニングを行うことだと思います。そして、進学した後の目標を明確に確立させることに加え、なぜその進路でなければならないのかといった志望理由が、一般入試以上に必要ポイントになります。

最後に、これはどの入試においても共通して言えることだと思いますが、受験期間中、自分が何をやるのか、何を選択して行動するのかといったことが、受験という一つの人生の岐路においてとても大切だと思います。悔いのないよう、努力してみてください。

筑波大学理工学部 公募推薦

アブソルート 片岡 佑太
(さいたま市立大成中学校出身)

皆さんのほとんどは推薦で進学を考えていると思いますが、評定が心配な人や学科試験なんて無理だと考えている人もいるのではないのでしょうか？評定なんか全く関係ないとは言えませんが、私立大学はもちろん、国公立でも評定の基準を設けていない学校もあります。学科試験が心配な人は今から受ける大学を選んですぐに準備を始めれば良いだけです。実際私も3年になってからも定期テストの補習を経験しているような生徒でしたが、夏に受験する大学を決め、2ヶ月の間先生に質問したり、面接練習をしてもらいながら準備したおかげで合格することができました。今の学力に自信が無い人もいかもしれませんが、そんなことは一切関係ありません。大事なのは今から何をすべきか考え、人より早く行動に移すことです。そうすれば皆さんも自分の行きたい大学で自分の学びたいことができると思います。頑張ってください！！

成城大学経済学部 指定校推薦

文理選抜 片野 未咲希
(北本市立宮内中学校出身)

私は、文武両道を目標にしました。部活で忙しいので予習復習はあまりやらずに毎日の授業で話をしっかり聞き、やったところをその日のうちに理解しておくようにしました。テスト勉強は部活の休みの時にやり、それ以外は部活に専念しました。

進路のことを真剣に考えたのは3年生になってからで、たくさんの大学があり、どこかの大学に行こうか悩んでばかりでした。しかし、担任の先生や両親がいつも相談に乗ってくれたり、進路を決めることが出来ました。

受験するにあたっては、小論文や面接の練習でたくさんの先生方の協力があり、放課後はクラスのみんで残って練習したり、一人では合格することは出来なかったと思います。

受験は一人で乗り越えるものではないと思います。先生や両親、友達みんなが応援してくれたり協力してくれます。そのことを忘れずに頑張ってください。

日本大学芸術学部 A.O

アート 加藤 綾夏
(川口市立領家中学校出身)

私がこの大学を受験しようと決めたのは、6月の始め頃でした。同じ大学を志望していた友人達は、5月頃から準備を始めていたので決して早いスタートではありませんでした。しかも、昨年と比べて試験内容が1つ増えていました。エントリーシートの前に、自己紹介アンケートというものを大学に提出しなくてはならなかったのです。時間も体力もなく、あるのは焦りのみといった状況でした。

そんな私でもこの大学に合格できたのは、たくさんの方々を支えられたからです。試験内容の1つであるプレゼンテーションの練習を見てくださった先生方、夕方遅くまで付き合ってくれた友人達、いろいろな事に協力してくれた家族、みなさん本当にありがとうございました。

私は今回の受験で様々な事を学びましたが、特に大事だと思ったのはあきらめないことです。みなさんも最後まであきらめずに受験頑張ってください。

慶應義塾大学環境情報学部 A.O

文理進学 秋元 玲乃
(入間市立東金子中学校出身)

私は3年間テニス部に所属し、「文武両道」をモットーに生活をしてきました。めりはりを持ち、大会の期間は部活優先、テスト期間は勉強を優先と、決して続ける事が苦にならないような特別な事はしてきませんでした。

入試準備では、慣れない志望理由書、面接練習など決って一人では出来な事ばかりでした。そんな私に、部活顧問の中村先生や遠藤先生をはじめ、進路指導の先生方、家族、応援してくれる友人など、たくさんの方々協力して下さいました。周りの助けがなければ、今回合格する事は絶対に出来ませんでした。

自分の志望している大学に合格するには、勉強はもちろん必要ですが、周りの人との人間関係がとても重要になってくると思います。大変なことばかりだと思いますが、後悔する事がないように頑張ってください。

中央大学経済学部 スポーツ推薦

文理進学 下岡 大騎
(川口市立戸塚中学校出身)

私は、この3年間、文武両道で高校生活を送るようになってきました。部活動の練習で帰宅するのが遅くなり、勉強できないことも多かったため、普段の授業とテスト期間中の勉強を大切にしました。

私はハンドボールのスポーツ推薦で面接と小論文があったため、その2つを一生懸命練習しました。どちらも初めてのことは全くできませんでした。しかし、たくさんの先生方に指導していただき何度も何度も練習するにつれて上達していききました。しっかりと目標と毎日の積み重ねがあったからこそ上達したのだと思います。

浦和学院には、進路活動をサポートしてくれる先生方がたくさんいらっしゃいます。受験は自分との戦いですが、覚悟を持ち、努力することでそれが自信となり、きっと希望の進路に進めると思います。在校生の皆さんもそれぞれの夢や目標に向かって、後悔のない進路活動が行えるよう頑張ってください。

東洋大学ライフデザイン学部 指定校推薦

総合進学 野山 菜月
(越谷市立平方中学校出身)

私は本格的に受験を意識したのは、3年生になってからです。オープンキャンパスを何校か見学し、志望校に向きあえるようになりました。

入学当初は、勉強と部活動を両立する為に頑張りすぎたが、リズムが掴めず苦労しました。しかし、勉強方法を変えてみると、少しずつ成績を上げることができるようになりました。

大学を決めるにあたり、担任の先生、進路指導の先生が親身になって相談に乗って下さり志望校を決めることができました。また、入試に向けて、先生方や友達が手助けして下さいだったので、無事に希望していた大学に進むことができました。何事も諦めずに頑張れば必ず結果がでると身をもって感じました。

受験は大変ですが、周りのたくさんの方が応援してくれます。頑張ってください。

東京女子医科大学看護学部 公募推薦

保健医療 内田 菜瑠美
(越谷市立北中学校出身)

私は、志望する大学に合格するために、多くの先生方にお世話になりました。小論文では、毎日田先生に添削していただき、何も書けなかった私が、本番では今までで一番納得のできる小論文を書くことができました。面接では、担任の児玉先生や三上先生にお世話になりました。

休み時間や放課後につきっきりで指導していただき、本番では緊張することなく面接を乗り越えることができました。協力していただいた先生方にはとても感謝しています。

諦めず、努力をすれば入試の本番で自信を持って臨むことができます。私自身、受験会場にいる他のどの受験生よりも小論文の練習回数は一番だという自信がありました。その自信が、実力以上の力を発揮することができた要因だと思います。自分が本当に行きたいと思う場所を見つけることができれば、どんなことでも努力し、自信をつけることができると信じています。



卒業記念講演会

24年度の卒業記念講演会には、武田邦彦氏が来校されました。武田氏は「さんまのホンマでっかTV」をはじめテレビでおなじみですが、大学教授や文部科学省科学技術審議会専門委員、企業の顧問など多岐にわたり活躍されています。(2013年3月現在)

講演会のテーマは「日本社会、今後の生き方」。科学の歴史から始まり、科学の進歩や今後の社会全体に求められることなど、ご自分の体験談や考えをまじえながらのお話でした。独特の語り口で、難しい科学の話を生徒にもわかりやすくそして楽しくお話いただき、会場は終始和やかな雰囲気でした。卒業生のみなさん、将来の日本を支える一員としてぜひ頑張ってください！



語学研修

2年N組 引田 真琴
(さいたま市立八王子中学校出身)

今回、静岡県OHARA VIGOR CLUBで過ごした3日間は私にとってとても充実した良い研修旅行になったと思う。この研修旅行を通じて私は、英語を学ぶ楽しさや大切さはもちろん、さまざまなことを学び、体験することができた。

1つ目は、英語しか通じない先生と、あまり英語を理解することのできない私達との授業。ネイティブの先生は英語が理解できない私達に、何を伝えたいのか、わかりやすい英語や身ぶり手ぶり、時にはカタコトの日本語を使って楽しく教えてくれた。私達も完全な英語は使うことができないけれど、英語しかわからないネイティブの先生にできるかぎりの英語を使ってコミュニケーションをとるよう頑張った。英語を使うことは簡単なことではないけれど、話そうという意欲が大切なんだと思った。来年行くオーストラリアへの修学旅行をはじめ、これから英語を使わなければならない機会があるときには、今回の研修で学び、感じたことを活かして頑張りたいと思う。

2つ目は、クラスの団結力。研修中、どの行動をするにも1年L組(研修実施は1年次)が一番に動くことができていたと思う。今までもL組はすごいとほめられることが多かったが、今回の研修旅行を通じて今まで以上の団結力になったと思う。たぶんそれは研修で行ったネイティブの先生との授業があったからだと思う。英語しか通じない先生に伝えるようにみんなで協力してコミュニケーションをとろうとしたり、みんなで協力してゲームをやったり、そういったことから、今回、クラスの絆がより深まったんだと思う。これらのこと以外にもこの研修を通じて学んだこと、考えたことはたくさんあったと思う。それらを活かして、これからの高校生活人生を歩んでいこうと思った。



修学旅行

◆特進類型◆

3年B組 島戸 はる
(三郷市立瑞穂中学校出身)

このオーストラリアでの修学旅行は、とても有意義なものでした。初めての海外でいきなりホームステイなんて大丈夫か心配でしたが、ホストファミリーが本当に優しく何も苦痛に感じることはなく、とても充実したホームステイ生活でした。朝ご飯を食べ、モーニングティーのおやつとランチを作ってもらい、放課後は山やコアラセンターやスーパーやショッピングに連れてってもらい、夜ご飯をテレビを見ながら一緒に食べました。そんなあたり前のようなことも私達にとってはどれもすごい新鮮で、良い経験をすることができました。学校では、オーストラリアのお金や動物や食べ物についても授業で楽しく学ぶことができました。また、授業の中でのプレゼンテーションで一番になることができ、4回も発表する機会がありました。この1週間で、普通では経験できないようなことをたくさん経験することができました。この経験と思い出をずっと忘れません。そしてまたいつか、ホストファミリーに会いに行きたいです。

◆進学類型◆

3年W組 大久保 宏樹
(さいたま市立三室中学校出身)

修学旅行を通じて感じたことは、コミュニケーションの重要さと、日本人と外国人の違いです。

コミュニケーションについては、話せなくても話そうとする事が大事だと思います。僕がたどたどしい英語で話をしても、ファームの方は笑顔で対応してくれました。ファームステイに行くまでは全く話せなかったらどうしようとか、言った英語が理解されなかったらどうしようと考えていた自分が馬鹿馬鹿しく、出来なくてもやってみることは大切なんだと思いました。

そして、日本人は繊細すぎるとも感じました。ファームステイの最終日、ファームの方は家を出るギリギリまでシャワーを浴びており、集合時間に間に合わないのでは、と思いました。しかし現地の方は時間のことはあまり気にしない様子で、時間にきっちりしている日本人との文化の違いを感じました。とても楽しく、そしていろいろな意味で勉強になった修学旅行でした。



3つのねらい

石巻交流センター 特任センター長
(前 石巻市立北上中学校 校長)

畠山 卓也

この度、縁あって浦和学院高等学校(以後、浦学)でお世話になる畠山卓也と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私と浦学との縁は、東日本大震災です。浦学がかなり早い時期から石巻に支援に入ったことはご存じの通りです。私は当時被害の大きかった北上地区にある北上中学校の校長をしており、出会うべくして浦学と出会ったのです。北上中学校の目の前には178世帯の仮設住宅「にっこり団地」があります。これまで通算して3度、野球部の部員や教職員の方々が「にっこり団地」の被災者のためのボランティア活動で北上地区を訪れました。被災した農地の瓦礫の除去や炊き出しなどを行い、被災者一人ひとりと親しく触れ合いました。このようなボランティア活動を通して、私と浦学とのお付き合いが深まったのです。また、浦学は石巻の他の地区や学校・施設等に支援・交流にやって来る度に北上中学校に立ち寄り、生徒と職員に物心両面の支援と励ましを行ってきました。

学校全体でボランティアに取り組んでいる浦学の素晴らしい活動に感動したことがきっかけになって、この度、第二の人生を浦学で送らせていただくことになりました。理科の講師として高校生に理科を教えるだけでなく、浦学が継続して実施している石巻との交流のお手伝いをする石巻交流センターの特任センター長を仰せつかりました。また、自分のライフワークである「語り部」として首都圏を中心とした被災地の方々に被災地の実態を伝えていく活動をしていきたいと考えています。

日本の同じ時代に生きる者として、東日本大震災は決して忘れてはならない出来事だと思います。日本は、いつ、どこで災害が起こっても不思議ではない時代に突入したようです。日常生活の中での防災・減災意識を高

めるとともに、地域の実態に即した防災・減災計画を立て、実践的な避難訓練を定期的に地域ぐるみで実施する必要があります。私の拙い体験が、そうした防災・減災活動やボランティア活動のお役に立てば幸いです。

浦学は、校舎や敷地はもちろん、生徒数も職員数も巨大です。また、こちらの生活は単身赴任となるため、慣れないことも多いのです。周囲の教職員の方々や生徒の皆さんに教えてもらいながらなんとか毎日を過ごしています。10年以上授業をしていなかったのも、何をどう進めていったらいいのか、毎日悩んでいます。現代の男子高校生は、つまらない話や興味のない話をじっと我慢して聞く力がかなり不足しているようです。難しいと敬遠されがちな化学ですが、実は日常生活に関わりがあることに気づいてもらい、身の回りの物質や化学だけでなく、科学全般に関心をもってもらうよう、現代的な話題にも触れながら、退屈で一方的な座学だけで終わらないよう工夫していきたいと思っています。

